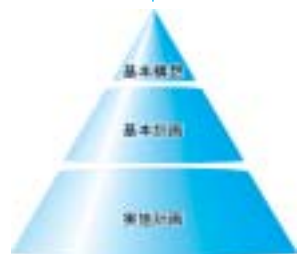


特集

新名寄市総合計画が目指すまちづくり 住み続けたいと思えるまちの実現に向けて



平成18年3月27日に風連町と名寄市が合併し、「名寄市」が誕生して間もなく4年が経過しようとしています。新たなまちづくりの指針となる新名寄市総合計画（第1次）は、市民の皆さんとの協働で策定され平成19年度からスタートしました。今年4月からは、名寄市自治基本条例が施行され、一層の情報公開、情報の共有が求められることとなります。平成19年度からの予算編成や住みよさランキングにもふれながら、新たなまちづくりの進行状況についてお知らせします。

新名寄市総合計画の策定

総合計画の策定の経過

総合計画は、まちづくりを総合的かつ計画的に進めるために市民と行政が共通の課題認識と目標を持ち、地域が一体となつて取り組んでいくための行動指針となるものです。

合併による自治体の基本的枠組みの変更に加え、少子高齢化の進行と人口減少や地方分権の進展、厳しい財政運営など多くの課題を解決しまちづくりを進めていくためには市民との協働による自主性と自立性の高い行政運営が求められています。

「」のような時代の潮流の中、風連・名寄市合併協議会におい

て平成16年に策定された新市建設計画を踏まえて、平成18年6月以降、1000人の策定審議会委員の皆さんによる熱心かつ精力的なご提言など、市民との協働によって新名寄市総合計画（第1次）が策定されました。

総合計画の期間と構成

平成19年度から平成28年度までの10年間にわたるこの総合計画は、協働・健康・生活・活力・人づくりの5つを基本理念として、「自然の恵みが人と地域を育み 市民みんなで創る 心豊かな北のまち・名寄」をまちづくりの目標と定めました。

総合計画は「基本構想」、「基

本計画」、「実施計画」で構成されています。基本構想は名寄市が目指す都市像を明らかにするとともに、5つのまちづくりの目標を定め分野ごとの基本的な方針を示します。

基本計画は、前期計画（平成19年度～平成23年度）と後期計画（平成24年度～平成28年度）に区分されていて、前期計画は熟度の高い内容とし、後期計画は前期計画5年間における施策の進捗状況を総合的に点検し評価を行った上で定められることとなります。基本構想で示された各分野の基本的な方針に基づき必要な施策を分野ごとに具体的に示します。

実施計画は、基本計画で示した施策の具現化のために必要とされる事務事業の内容や期間などを定めます。

住み続けたいと思えるまちとは？

名寄市は、住みよさランキングで全道2位

住みよさランキングは、雑誌・書籍等の製造・販売やデータサービス事業を手がける、株式会社東洋経済新報社が毎年発行している都市データパックに掲載されています。1992年に始めて今年で17回目になります。

2009年版のランキングは左表にまとめてありますが、全国806市区が対象で、「安心度」「利便度」「快適度」「富裕度」「住居水準充実度」の5つの観点から14の指標を採用。各指標について偏差値を算出し、その平均値を総合点としています。

- 名寄市の住みよさランキング(2009年版、全道順位)
- 総合順位2位(全国198位)
 - 5つの観点別道内順位
 - 安心度1位(全国18位)
 - 利便度4位(全国66位)
 - 快適度16位(全国283位)
 - 富裕度24位(全国650位)
 - 住居水準充実度14位
- (全国618位)

名寄市における1995年版

(平成7年)以降のランキングの推移をみると、全国総合順位では、最高が第26位(2002年)、最低が第265位(2007年)となっていますが、道内においては、2度の第1位(1997・2003年)をはじめとして最低でも第7位と、高い位置にランキングされています。

住みよさランキングの分析

このランキングは国内で唯一、全国の都市を対象に継続して公表されているものといわれています。第三者機関が客観的な指標に基づいて評価するもので、5つの観点別では、安心度が道内1位(全国18位)と高い評価を得ています。これは、道北地方のセンター病院としての市立総合病院と民間医療機関の充実によるものです。

次に、利便度では道内4位(全国で66位)とこちらも高い評価を得ています。今後、大型小売店舗舗面積の増加などがランキングアップにつながっていくものと考えられます。

また、快適度では道内16位(全国283位)とまずまずの評価を得ています。公共下水道の高

い普及率など、積み重ねてきたインフラ(社会基盤)整備が評価されたものと考えられます。残る富裕度と住宅水準充実度では、それぞれ24位(全国650位)、14位(全国618位)と、残念ながら下位に低迷しています。

市民が望むまちの姿は？

ここで、「風連町・名寄市が合併する」としたら、どのようなまちになればよいと思いますか」との設問で行った市町村合併に関するアンケート調査の結果をまとめてみました。左表のとおり圧倒的に健康福祉のまちが支持されていて、次に快適住環境のまちが続いています。

- 人にやさしい保健・医療・福祉の充実した健康福祉のまち(52・1%)
- 快適で安全な居住環境の整備を優先する快適住環境のまち(29・5%)
- 自然や環境の保護・保全を優先する環境保全のまち(18・7%)
- 企業誘致や地場産業の振興による商業のまち(18・3%)
- 農業を中心として発展する農林業のまち(18・2%)
- 住民が自発的にまちづくりを行う住民参画のまち(17・9%)

市町村合併に関するアンケート調査では、「あなたは、お住まいの市・町の現状をどう思いますか」という設問で、自然環境や生活基盤、福祉、教育など各分野にわたる24項目と「総合的な市・町の現状」の計25項目について項目ごとに満足度評価を行っています。(左表参照)

満足度が高い項目

- 自然環境の豊かさ(5・66点)
 - 水道の整備状況(5・23点)
 - 災害からの安全性(4・55点)
 - 下水・排水の処理状況(4・7点)
 - ごみの収集・処理の状況(2・62点)
 - 騒音・振動・悪臭等の環境(2・50点)
- 満足度が低い項目
- 観光振興への取り組み(2・58点)
 - 商業振興への取り組み(1・80点)
 - 工業振興への取り組み(1・72点)

なお、設定した24項目のうち、プラス評価となっている項目が19項目、マイナス評価となっている項目が5項目にとどまり、「総合的な市・町の現状」は0・21点とプラス評価であり、総合的な評価は比較的高い結果だといえます。

新名寄市総合計画の策定

保健・医療・福祉の充実

市民が望むまちの姿では、「人にやさしい保健・医療・福祉の充実した健康福祉のまち」が50%を超える支持を集めました。

住みよさランキングの「安心度」では、名寄市は全道1位（全国18位）に輝いています。

「安心度」ランキングの算出根拠とは必ずしも一致しませんが、全国順位などのデータを左表にまとめてみました。

「安心度」の指標と順位

病院・一般診療所病床数/人口
131・95床/1万人(全国60位、厚生労働省06調査)

介護老人福祉施設・介護老人保健施設定員数/65歳以上人口
2・85人/1000人(全国203位、厚生労働省06調査)

出生数/15〜49歳女性人口
9・9人/千人(全国215位、総務省08調査)

一方、この分野に使われる予算では、民生費35・4億円、衛生費24・1億円（平成20年度当初）で、一般会計予算の32・3%を占めているほか、職員数が870人（平成18年）から840人（平成21年）に減少する中で、病

院部門では386人から401人に増加するなど、予算・人員ともに充実を図っています。

快適で安全な居住環境

次に、市民が望むまちの姿で約30%の支持を集めた、「快適で安全な居住環境の整備を優先する快適住環境のまち」について、利便度と快適度の主なデータを左表にまとめてみました。

「利便度」の指標と順位

小売業年間販売額/人口
130万円/人(全国41位)

大型小売店舗面積/人口
1・4人/人(全国20位)

「快適度」の指標と順位

公共下水道・合併浄化槽普及率
85・2%(全国195位)

都市公園面積21㎡/人(全国82位)

各指標とも高いランクにあって、市民の満足度とも一致していることが分かります。

ランキングには、住みよさのほかにも5分野があつて、建物火災・交通事故・刑法犯認知件数などを指標とする安全なまちの分野では名寄市は全国で40位（昨年33位）と、高く評価されています。



しっかりと着実に

総合計画については、2ページで策定の経過などを詳しくお知らせしました。策定された当初の事業数は196事業で、平成19年度から平成23年度までの前期計画5年間に計上された当初事業費の合計は299億9682万円（預託金事業を含めると320億5682万円）にのぼりました。

この事業費を総合計画の5本の基本目標ごとに分けると次のとおりになります。

- 基本目標1
市民と行政との協働によるまちづくり
1億6000万円
- 基本目標2
安心して健やかに暮らせるまちづくり
25億9977万円
- 基本目標3
自然と環境にやさしく快適で安全なまちづくり
123億8927万円

基本目標4

創造力と活力にあふれたまちづくり
122億9947万円（預託金事業を含めると143億5947万円）

基本目標5

心豊かな人と文化を育むまちづくり
25億4832万円

（基本目標）ことの主な計画事業については5ページの表を参照）限られた財源の中では、総合計画に搭載された事業を単年度に全て実施することは困難です。このため、事業の目的や目標年度を明確にし、情勢の変化に対応するため、3カ年の計画を毎年度見直しています。

ローリング方式といわれるこの進行管理は、毎年度、予算編成の前に行われていて、各部署長ローリング、市長ローリング、総合計画庁内推進委員会、総合計画推進市民委員会を経て事業の調整が行われています。すでに、平成19年度に行われた第1期ローリング（平成20年度）、平成20年度第2期ローリング（平成21〜23年度）と、今年度行われた第3期ローリング（平成22〜23年度）の結果、事業数については237事業となり、前期計画5年間に計上された事業費の合計は337億9488万

円（預託金事業を含む）となりました。

また、新総合計画がスタートした平成19年度から3年間の当初予算に計上された総合計画の事業数は【平成19年度】118事業、【平成20年度】146事業【平成21年度】135事業となっています。

なお、新名寄市総合計画前期事業計画総括表などの詳しい情報は、名寄市ホームページ（http://www.city.nayoro.lg.jp/）をご覧ください。

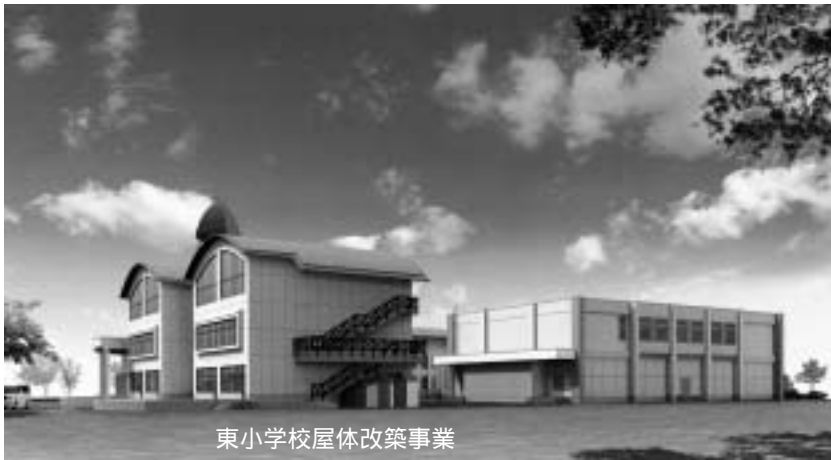
躍動の年に…

新名寄市の誕生以降、市立大学が開学し、道の駅が開業しました。今年4月には、市立天文台（きたすばる、地域交流センター）風つ子ホールがオープンし、年内には東小学校屋体が新しくなります。

先人が築いた社会基盤と人的資源を活かすために、大学を核としたまちづくり、充実した冬季スポーツ施設での交流、美しい星空日本一など、交流人口の拡大に取り組んできました。

豊かな自然を背景にした農産品のブランド化、高速交通体系のネットワーク化など、課題が途絶えることはありませんが、住みやすく安全・安心である

ことが名寄市の個性とすれば、人口減少社会の今だからこそ、それを目指したまちづくりを進めていくことが、新名寄市総合計画（第1次）で設定した将来像「自然の恵みが人と地域を育み 市民みんなで創る 心豊かな北のまち・名寄」につながっていくものと考えられます。



東小学校屋体改築事業

基本目標ごとの主な計画事業

基本目標1 市民と行政との協働によるまちづくり

- 自治基本条例の制定
- 男女共同参画推進計画の推進
- 町内会自治活動交付金
- 戸籍の電算化および戸籍システムの導入

基本目標2 安心して健やかに暮らせるまちづくり

- 健康診査事業
- 町内会ネットワーク事業
- 地域医療支援事業の推進
- 市立総合病院病棟増改築
- 医療機器の更新整備
- 認定こども園の設置
- 高齢者除雪サービス事業

基本目標3 自然と環境にやさしく快適で安全なまちづくり

- 資源集団回収奨励金事業
- 災害弱者緊急通報システム端末更新事業
- 公営住宅の立て替え
- 風連地区市街地再開発事業
- 公園整備事業
- 上水道第2期拡張事業
- 幹線道路、生活道路の整備

基本目標4 創造力と活力にあふれたまちづくり

- 農業基盤整備事業
- 中山間地域等直接支払交付金
- 農業振興資金融資事業
- 農業支援システム定着促進事業
- 市有林造林事業
- 商店街活性化事業
- 道の駅整備
- 複合交流施設整備事業

基本目標5 心豊かな人と文化を育むまちづくり

- 小中学校校舎屋体改築事業
- 栄養教諭の配置事業
- 風連東地区運動広場整備事業
- 市民文化祭事業
- 市立天文台建設事業
- 移動図書館車更新事業



市立総合病院



市立大学



市立天文台きたすばる



地域交流センター